

「住民の方との対話」を目的に、まちかどインタビューを掲載しています。

○お仕事を通じて一番感じることは
自分たちが、どんな老後を送りたいのかということは大切なことです。最期は家で迎えたいと望んでいる人が増えていますが、昔と違い、皆さん

老人保健施設「あららぎ」でケアマネージャーをなさっている、小林よし子さんと小池あや子さんにお話を伺いました。



老人保健施設「あららぎ」
ケアマネージャーの
小林さん 小池さん

○利用者に伝えたいことは
本人や・ご家族の意思を最大限に尊重したいと努力しています。制度の中でも融通の聞くことはありますので、気軽に相談をして欲しいです。

在宅での介護でも医療の充実を望んでいます。その点では訪問看護がなければ成り立ちません。現在はぎりぎりの状態でやっているのが実情で、看護師の不足が問題です。

地域がひとりの家族のようにならねばいけませんね

○富士見町のよさは

医療と福祉の連携が良いことです。たとえば、病院の治療が必要で無くなったとき、在宅生活に近い福祉施設を利用することによって、在宅での生活を不安なく過ごすことができます。

富士見高原病院院長の「遠くの親戚よりも近くの高原病院」の理念のおかげで、地域医療の充実では、大変恵まれていると思います。

○富士見町に期待することは

これからは、お年寄りだけの世帯が増えていきます。心身レベルの低下を知られたくないと言う気持ちや、個人情報保護も大切ですが、それをカバーできるのはやはり地域の力です。地域が、一つの家族のような存在になればいいですね。お年寄りが集まれる場や、地域で支える体制作りの面では、地区社協には期待しています。

編集後記

わが町に「富士見の自然と文化を守る会」があり、町民および町を離れた人たちが活動している。そのなかで町を離れた人たちが、いまの町をきびしく観察している。

町民よりも客観的に見られるのかも。とくに指摘されるのは、かつて撃茂していた花や蝶類の激減。無計画に進んだ乱開発のつげがきたのか。シカや猿の繁殖で植物系の変化があったのか、地球の温暖化によると唱える人もいる。いずれにしても、人間のかかわりを否定できない。過去のすばらしかった自然環境を未来に引き継ぐ責任感を強くもちたい。(小林 光)

■議会広報編集委員会

編集委員長 小林 光

副委員長 名取 武一

委員 エンジエル千代子

” 織田 昭雄

ふじみ議会だよりは、議会ホームページにも掲載されています。